

●用語解説

用語	内容	掲載ページ
【2007年問題】	高度経済成長期に企業の情報システムを作ってきた、団塊の世代と呼ばれる1947年から1949年生まれの人たちの定年退職が始まり、いまだに当時のプログラムが動いている企業では、情報システムの面倒を見られる人がいなくなってしまうと言われている問題。	13,14
【3R】	環境保護の観点から『リデュース、リユース、リサイクル』をまとめた呼び方。リデュースとは、不要になった時あまりゴミが出ないように、より少ない材料で製品を作ること。リユースは不用品をそのまま、または部品として再利用すること、リサイクルは溶かしたり砕いたりして原料として再利用することで、どちらも捨ててゴミになることを避けるのが目的。	31
【CSR】	Corporate Social Responsibility = 企業の社会的責任。企業活動を経済面だけでなく社会面、環境面からも捉え、それぞれについて果たすべき役割をバランスよく実行し、結果を公表・説明すること。日本ユニシスグループでは「ITが人と社会にできること」をスローガンに、ITに関わる事業を通じてCSRに取り組んでいる。	たくさんのページ
【e-Japan戦略】	「5年以内に世界最先端のIT国家となることを目指す」として2001年1月22日に決定された日本の国家戦略。	18
【eラーニング】	パソコンやインターネットを利用した個別学習の仕組み。受講者は会社や自宅のパソコンで、好きな時間に学習を進めることができる。	16,25,33, 35,38
【ICタグ】	値札や値段シールという形に加工されたアンテナ付ICチップのこと。例えばコンビニの商品すべてにバーコードでなくICタグをつけることにより、買い物カゴをレジ前に置くだけで瞬時に合計金額が表示されるなどの利用方法が考えられる。	12,14
【ISMS】	情報セキュリティマネジメントシステム。電子データの盗難、悪意を持った修正、秘密情報の流出や紛失を防止するための規則や行動の手本の制定、建物への人の出入りの管理、事故時の対処方法をあらかじめ決めておくことなどを行い、組織で運用すること。財団法人日本情報処理開発協会が国内規格を作成し（JIS Q 27001）、認証制度を運営している。	36
【P2M】	Project and Program Management。特定非営利活動法人「日本プロジェクトマネジメント協会」が認定するプロジェクトマネージャの資格制度。PMC、PMS、PMR、PMAの四つのレベルがある。	26
【PDCA】	継続的に行う業務を計画（plan）、実行（do）、評価（check）、改善（act）の四つの段階に意識的に分けて実施し、最後の改善を次のサイクルの計画につないで全体を繰り返していくことによって、業務をより効率的に、高品質にしていこうという考え方。	36,37
【Pマーク】	プライバシーマーク。財団法人日本情報処理開発協会によって運用されている制度。個人情報を取り扱っている企業に対して審査を実施し、合格した企業に「Pマーク」の使用を認める。	36
【TLO】	Technology Licensing Organizationの略で、技術移転機関のこと。大学での研究成果や知的財産を探し出し、特許を取ったり企業に紹介したりする法人。	19
【暗黙知】	知識のうち、「自転車の乗り方」や「日本語の話し方」など、個人の経験や身体技能に根ざしていて、他人に説明するのがむずかしい「知」のこと。転じてIT業界では、個人が抱え込んでいて他者と共有していない知識や情報のことを指し、工夫すれば他者との共有が可能（＝形式知）とされている。	12
【インセンティブ】	報償金のような、目標を達成するための刺激。	25,26
【イントラネット】	企業内のインターネットのこと。企業の外からは参加できないようにしてある。社内情報のやりとりや保管のために使われる。	26,27
【オープン系システム】	UNIXサーバを中心に構築したシステムのこと。90年代前半より普及し始めた。最近ではLinuxやWindowsのみで構築されたシステムもオープン系システムと呼ぶ。	20
【オフショア開発】	プログラム開発を海外（主に中国やベトナム）の事業者任せにすること。安い人件費で大量の人員を調達できるのがメリットだが、言葉や文化の違いがあるため、事前の教育や作業時の意思疎通をおろそかにすると、期待した品質や納期が保てない恐れもある。	8

用語	内容	掲載ページ
【求人フォーラム】	就職や転職を紹介・斡旋するインターネット上のホームページのこと。または複数の求人企業を集めた合同就職説明会のこと。	24
【グリーン調達】	環境への負荷がより少ない物品やサービスを選んで購入すること。	31
【コーポレート・ガバナンス】	企業における意思決定の仕組みをコントロールし、企業をあるべき方向へ導く組織力のこと。	35
【コミュニケーションツール】	他者と意思の疎通や情報交換をするときに、直接対話する以外に使用する媒体のこと。企業と社員の場合は社内報や社内ホームページ、企業と顧客の場合は広報誌や社外向けホームページなど。	15,16,22,23,27,28
【コンプライアンス】	法令遵守。バブル以前の昔と比べ、企業の不祥事が発覚するとその企業の存命すらも危うくなるほど、社会の監視の目が厳しくなってきた。古くからの業界の慣習などでも違法なものは断ちきり、その時々々の法律に触れない企業活動を行うことが重視されている。	34,35
【ステークホルダー】	企業に関係のあるあらゆる人のこと。社員、社員の家族、顧客、取引先、株主、投資家、地域住民、行政官など。	たくさんのページ
【ダイバーシティ】	多様性を受け入れること。本書では雇用の多様性の意。性別や年齢、国家・民族の違いや宗教の違いにとらわれずにさまざまな人材を採用すること。商品企画などでユニークなアイデアを生みだしたり、複雑化する社会からのさまざまな要求に対し柔軟な対応が期待できる。あくまでもビジネス戦略の一環であり、弱者の雇用という社会貢献的な意味は持っていない。	6,16,24
【通所授産施設】	ある程度の作業能力はあるが、普通に勤めることが困難な人が、通いながら仕事をしたり、就職のために必要な訓練を受ける施設。	29
【ニート】	NEET (Not in Employment, Education or Trainingの略)。職に就いたり学校に行ったりせず、そのつもりもない人のこと。	19
【プロジェクトマネージャ】	Project Manager。コンピュータによる業務システムを開発するときの、開発者側の責任者。	26
【ベンダー】	買い手の要求に応じてコンピュータ関連のハードウェアやソフトウェアを調達してきたり、自前で開発したりして提供する立場の企業。	9,26,31
【マッチングギフト】	会社の社員がどこかへ寄付をする時、会社も同じところへ同じ額を合わせて寄付すること。寄付金が倍になる以外に、会社としての社会貢献活動のアピールや、社員をボランティア活動に注目させる効果がある。	29
【ユビキタス】	ラテン語で「どこにでもいる(ある)」という意味。いつでもどこでも意識せずにコンピュータを利用できる環境のこと。	12,14,19
【ライフライン】	ガス、電気、水道といった、日常生活に必須の公共設備のこと。電話やインターネット等のネットワーク設備や、物資や人を運ぶ道路・鉄道設備を含めることもある。	13

編集後記

日本ユニシスグループは「ITが人と社会にできること」をスローガンとしてCSR活動を推進しています。そして、活動の成果をお伝えし理解していただくために、多くのみなさまにCSR報告書を読んでいただくことが重要と考えています。今回は「読みやすい、分かりやすい、読んでみたい」を編集方針として当報告書を作成しました。いくぶんでも、私たちの気持ちがみなさまに伝われば、と思っています。みなさまのご意見、ご感想をお待ちしています。



日本ユニシス株式会社

〒135-8560 東京都江東区豊洲1-1-1 TEL 03-5546-4111 (大代表)
<http://www.unisys.co.jp/>



この報告書は、古紙配合率100%再生紙に水なし印刷で、大豆油インキを用いて印刷されています。

2006年7月発行